離散数理工学　第 7 回
離散代数：有限群の構造

岡本 吉央
okamotoy@uec.ac.jp

電気通信大学

2019 年 11 月 19 日

最終更新：2019 年 11 月 26 日　13:51

スケジュール 前半 (予定)

1. 数え上げの基礎：二項係数と二項定理 (10/1)
2. 数え上げの基礎：漸化式の立て方 (10/8)
3. 数え上げの基礎：漸化式の解き方 (基礎) (10/15)

⋆ 休み (祝日) (10/22)

4. 数え上げの基礎：漸化式の解き方 (発展) (10/29)
5. 離散代数：図形とグラフの対称性 (11/5)
6. 離散代数：有限群 (11/12)
7. 離散代数：有限群の構造 (11/19)
8. 離散代数：グラフの対称性と有限群 (11/26)

注意：予定の変更もありうる

スケジュール 後半 (予定)

9. 離散確率論：確率的離散システムの解析 (基礎) (12/3)
- ⋆ 中間試験 (12/10)
10. 離散確率論：確率的離散システムの解析 (発展) (12/17)
11. 離散確率論：乱択データ構造とアルゴリズム (基礎) (1/7)
12. 離散確率論：乱択データ構造とアルゴリズム (発展) (1/14)
13. 離散確率論：マルコフ連鎖 (基礎) (1/21)
14. 離散確率論：マルコフ連鎖 (発展) (1/28)
- ⋆ 授業等調整日 (2/4)
- ⋆ 期末試験 (2/18?)

注意：予定の変更もありうる

今日の目標

部分群に関する概念を理解する

- 部分群，正規部分群
- 剰余群

2 つの群が同型でないことを証明する方法の 1 つを体得する

- 群同型定理

目次

部分群

群 $(G, \circ)$，$H \subseteq G$

定義：部分群とは？

$(H, \circ)$ が群であるとき，H を G の**部分群**と呼ぶ

$\boxed{\text{注意}}$：$(G, \circ)$ と $(H, \circ)$ における演算は同一

定義の言い換え：部分群とは？

H が G の部分群であるとは，

- $x, y \in H \Rightarrow x \circ y \in H$ (演算の保存)
- G の単位元 e に対して，$e \in H$ (単位元の保存)
- $x \in H \Rightarrow G$ における x の逆元 x^{-1} に対して $x^{-1} \in H$ (逆元の保存)

部分群：例

$G = \{e, a, b, x, y, z\}$

群表

$\circ$	e	a	b	x	y	z
e	e	a	b	x	y	z
a	a	x	y	e	z	b
b	b	z	e	y	x	a
x	x	e	z	a	b	y
y	y	b	a	z	e	x
z	z	y	x	b	a	e

次の部分集合 H は G の部分群か？

- $H = \{e, a\}$ $(a^{-1} = x \notin H)$
- $H = \{e, a, x\}$ $(e^{-1} = e, a^{-1} = x, x^{-1} = a)$
- $H = \{e, b, y\}$ $(b \circ y = x \notin H)$

部分群であるための必要十分条件

群 $(G, \circ)$，部分集合 $H \subseteq G$，$H \neq \emptyset$

性質：部分群であるための必要十分条件

H が G の部分群である $\Leftrightarrow$ 任意の $a, b \in H$ に対して，$a^{-1}b \in H$

$\Rightarrow$ の証明：H が G の部分群であると仮定する

- 任意の $a, b \in H$ を考える
-
- $a^{-1}b \in H$ $\square$

部分群であるための必要十分条件

群 $(G, \circ)$，部分集合 $H \subseteq G$，$H \neq \emptyset$

性質：部分群であるための必要十分条件

H が G の部分群である $\Leftrightarrow$ 任意の $a, b \in H$ に対して，$a^{-1}b \in H$

$\Rightarrow$ の証明：H が G の部分群であると仮定する

- 任意の $a, b \in H$ を考える
- H は G の部分群なので，$a^{-1} \in H$
- $a^{-1}b \in H$ $\square$

部分群であるための必要十分条件

群 $(G, \circ)$，部分集合 $H \subseteq G$，$H \neq \emptyset$

性質：部分群であるための必要十分条件

H が G の部分群である $\Leftrightarrow$ 任意の $a, b \in H$ に対して，$a^{-1}b \in H$

$\Rightarrow$ の証明：H が G の部分群であると仮定する

- 任意の $a, b \in H$ を考える
- H は G の部分群なので，$a^{-1} \in H$
- H は G の部分群で，$a^{-1}, b \in H$ なので，$a^{-1}b \in H$ $\square$

部分群であるための必要十分条件 (続 1)

群 $(G, \circ)$，部分集合 $H \subseteq G$，$H \neq \emptyset$

性質：部分群であるための必要十分条件

H が G の部分群である $\Leftrightarrow$ 任意の $a, b \in H$ に対して，$a^{-1}b \in H$

<u>$\Leftarrow$ の証明</u>：任意の $a, b \in H$ に対して $a^{-1}b \in H$ であると仮定する

- このとき,「演算の保存」,「単位元の保存」,「逆元の保存」を確認する

部分群であるための必要十分条件 (続 1)

群 $(G, \circ)$，部分集合 $H \subseteq G$，$H \neq \emptyset$

性質：部分群であるための必要十分条件

H が G の部分群である $\Leftrightarrow$ 任意の $a, b \in H$ に対して，$a^{-1}b \in H$

<u>$\Leftarrow$ の証明</u>：任意の $a, b \in H$ に対して $a^{-1}b \in H$ であると仮定する

- このとき,「演算の保存」,「単位元の保存」,「逆元の保存」を確認する

$\boxed{\text{単位元の保存}}$

部分群であるための必要十分条件 (続 1)

群 $(G, \circ)$，部分集合 $H \subseteq G$，$H \neq \emptyset$

性質：部分群であるための必要十分条件

H が G の部分群である $\Leftrightarrow$ 任意の $a, b \in H$ に対して，$a^{-1}b \in H$

$\Leftarrow$ の証明：任意の $a, b \in H$ に対して $a^{-1}b \in H$ であると仮定する

- このとき,「演算の保存」,「単位元の保存」,「逆元の保存」を確認する

単位元の保存

- $H \neq \emptyset$ なので，ある $x \in G$ が存在して $x \in H$

部分群であるための必要十分条件 (続 1)

群 $(G, \circ)$，部分集合 $H \subseteq G$，$H \neq \emptyset$

性質：部分群であるための必要十分条件

H が G の部分群である $\Leftrightarrow$ 任意の $a, b \in H$ に対して，$a^{-1}b \in H$

$\Leftarrow$ の証明：任意の $a, b \in H$ に対して $a^{-1}b \in H$ であると仮定する

- このとき,「演算の保存」,「単位元の保存」,「逆元の保存」を確認する

単位元の保存

- $H \neq \emptyset$ なので，ある $x \in G$ が存在して $x \in H$
- 仮定において $a = b = x$ とすると，$x^{-1}x \in H$ が得られる

部分群であるための必要十分条件 (続 1)

群 $(G, \circ)$，部分集合 $H \subseteq G$，$H \neq \emptyset$

性質：部分群であるための必要十分条件

H が G の部分群である $\Leftrightarrow$ 任意の $a, b \in H$ に対して，$a^{-1}b \in H$

$\Leftarrow$ の証明：任意の $a, b \in H$ に対して $a^{-1}b \in H$ であると仮定する

- このとき,「演算の保存」,「単位元の保存」,「逆元の保存」を確認する

単位元の保存

- $H \neq \emptyset$ なので，ある $x \in G$ が存在して $x \in H$
- 仮定において $a = b = x$ とすると，$x^{-1}x \in H$ が得られる
- 逆元の定義より，$x^{-1}x = e$ なので，$e \in H$ □

部分群であるための必要十分条件 (続 2)

群 $(G, \circ)$，部分集合 $H \subseteq G$，$H \neq \emptyset$

性質：部分群であるための必要十分条件

H が G の部分群である $\Leftrightarrow$ 任意の $a, b \in H$ に対して，$a^{-1}b \in H$

<u>$\Leftarrow$ の証明 (続)</u>：

部分群であるための必要十分条件 (続 2)

群 $(G, \circ)$，部分集合 $H \subseteq G$，$H \neq \emptyset$

性質：部分群であるための必要十分条件

H が G の部分群である $\Leftrightarrow$ 任意の $a, b \in H$ に対して，$a^{-1}b \in H$

<u>$\Leftarrow$ の証明 (続)</u>：

$\boxed{\text{逆元の保存}}$：$x \in H$ とする

$\boxed{\text{演算の保存}}$：

これで 3 つの性質の成立が確かめられた □

部分群であるための必要十分条件 (続 2)

群 $(G, \circ)$，部分集合 $H \subseteq G$，$H \neq \emptyset$

性質：部分群であるための必要十分条件

H が G の部分群である $\Leftrightarrow$ 任意の $a, b \in H$ に対して，$a^{-1}b \in H$

$\Leftarrow$ の証明 (続)：

逆元の保存：$x \in H$ とする

- 仮定において $a = x, b = e$ とすると，$x^{-1}e \in H$ が得られる

演算の保存：

これで 3 つの性質の成立が確かめられた □

部分群であるための必要十分条件 (続 2)

群 $(G, \circ)$，部分集合 $H \subseteq G$，$H \neq \emptyset$

性質：部分群であるための必要十分条件

H が G の部分群である $\Leftrightarrow$ 任意の $a, b \in H$ に対して，$a^{-1}b \in H$

$\Leftarrow$ の証明 (続)：

$\boxed{\text{逆元の保存}}$：$x \in H$ とする

- 仮定において $a = x, b = e$ とすると，$x^{-1}e \in H$ が得られる
- 単位元の定義より，$x^{-1}e = x^{-1}$ なので，$x^{-1} \in H$ □

$\boxed{\text{演算の保存}}$：

これで 3 つの性質の成立が確かめられた □

部分群であるための必要十分条件 (続 2)

群 $(G, \circ)$，部分集合 $H \subseteq G$，$H \neq \emptyset$

性質：部分群であるための必要十分条件

H が G の部分群である $\Leftrightarrow$ 任意の $a, b \in H$ に対して，$a^{-1}b \in H$

$\Leftarrow$ の証明 (続)：

$\boxed{\text{逆元の保存}}$：$x \in H$ とする

- 仮定において $a = x, b = e$ とすると，$x^{-1}e \in H$ が得られる
- 単位元の定義より，$x^{-1}e = x^{-1}$ なので，$x^{-1} \in H$ □

$\boxed{\text{演算の保存}}$：$x, y \in H$ とする

これで 3 つの性質の成立が確かめられた □

部分群であるための必要十分条件 (続 2)

群 $(G, \circ)$，部分集合 $H \subseteq G$，$H \neq \emptyset$

性質：部分群であるための必要十分条件

H が G の部分群である $\Leftrightarrow$ 任意の $a, b \in H$ に対して，$a^{-1}b \in H$

$\Leftarrow$ の証明 (続)：

$\boxed{\text{逆元の保存}}$：$x \in H$ とする

- 仮定において $a = x, b = e$ とすると，$x^{-1}e \in H$ が得られる
- 単位元の定義より，$x^{-1}e = x^{-1}$ なので，$x^{-1} \in H$ □

$\boxed{\text{演算の保存}}$：$x, y \in H$ とする

- 仮定において，$a = x^{-1}, b = y$ とすると，$(x^{-1})^{-1}y \in H$ が得られる

これで 3 つの性質の成立が確かめられた □

部分群であるための必要十分条件 (続 2)

群 $(G, \circ)$，部分集合 $H \subseteq G$，$H \neq \emptyset$

性質：部分群であるための必要十分条件

H が G の部分群である $\Leftrightarrow$ 任意の $a, b \in H$ に対して，$a^{-1}b \in H$

$\Leftarrow$ の証明 (続)：

逆元の保存：$x \in H$ とする

- 仮定において $a = x, b = e$ とすると，$x^{-1}e \in H$ が得られる
- 単位元の定義より，$x^{-1}e = x^{-1}$ なので，$x^{-1} \in H$ □

演算の保存：$x, y \in H$ とする

- 仮定において，$a = x^{-1}, b = y$ とすると，$(x^{-1})^{-1}y \in H$ が得られる
- 演習問題 6.6 より，$(x^{-1})^{-1} = x$ なので，$xy \in H$ となる □

これで 3 つの性質の成立が確かめられた □

同型写像と部分群

群 $(G, \circ), (G', \circ')$，同型写像 $f\colon G \to G'$，部分群 $H \subseteq G$

性質：同型写像と部分群

$f(H)$ は G' の部分群

定義の確認：$f(H) = \{f(h) \mid h \in H\}$ (f による H の像)

証明：任意の $a, b \in f(H)$ が $a^{-1}b \in f(H)$ を満たすことを示す

- f は同型写像なので，ある $x, y \in H$ が存在して，$f(x) = a, f(y) = b$
- f は同型写像なので，

$$a^{-1}b = f(x)^{-1}f(y) \overset{(*)}{=} f(x^{-1})f(y) = f(x^{-1}y)$$

- H は部分群なので，$x^{-1}y \in H$
- $\therefore f(x^{-1}y) \in f(H)$ であり，$a^{-1}b \in f(H)$ □

$\boxed{\text{注}}$：$(*)$ は演習問題

目次

左剰余類

群 $(G, \circ)$，部分群 $H \subseteq G$，要素 $g \in G$

定義：左剰余類とは？

g に関する H の左剰余類とは，次の集合のこと

$$gH = \{gh \mid h \in H\}$$

$G = \{e, a, b, x, y, z\}$，部分群 $H = \{e, a, x\}$

$\circ$	e	a	b	x	y	z
e	e	a	b	x	y	z
a	a	x	y	e	z	b
b	b	z	e	y	x	a
x	x	e	z	a	b	y
y	y	b	a	z	e	x
z	z	y	x	b	a	e

$bH = \{be, ba, bx\} = \{b, z, y\}$, $yH = \{ye, ya, yx\} = \{y, b, z\}$

右剰余類

群 $(G, \circ)$，部分群 $H \subseteq G$，要素 $g \in G$

定義：右剰余類とは？

g に関する H の右剰余類とは，次の集合のこと

$$Hg = \{hg \mid h \in H\}$$

$G = \{e, a, b, x, y, z\}$，部分群 $H = \{e, a, x\}$

$\circ$	e	a	b	x	y	z
e	e	a	b	x	y	z
a	a	x	y	e	z	b
b	b	z	e	y	x	a
x	x	e	z	a	b	y
y	y	b	a	z	e	x
z	z	y	x	b	a	e

$Hb = \{eb, ab, xb\} = \{b, y, z\} = bH$

剰余類と同値関係

群 G，部分群 $H \subseteq G$

G の上の二項関係 $\sim$ を次で定義

任意の $a, b \in G$ に対して

$$a \sim b \quad \Leftrightarrow \quad aH = bH$$

先ほどの例：$b \sim y$

性質：この二項関係は同値関係

上で定義した $\sim$ は G 上の同値関係，つまり，次の 3 つを満たす

- 任意の $a \in G$ に対して，$aH = aH$ (反射性)
- 任意の $a, b \in G$ に対して，$aH = bH$ ならば $bH = aH$ (対称性)
- 任意の $a, b, c \in G$ に対して，$aH = bH$ かつ $bH = cH$ ならば $aH = cH$ (推移性)

これが成り立つことはすぐ分かる (演習問題)

剰余類と同値分割

群 G，部分群 $H \subseteq G$

G の上の二項関係 $\sim$ を次で定義

任意の $a, b \in G$ に対して

$$a \sim b \quad \Leftrightarrow \quad aH = bH$$

これは G 上の同値関係なので，G の同値分割を与える

つまり，

$G/\sim\, = \{gH \mid g \in G\}$ は G の分割

この同値分割を G/H と書く (注：$\frac{G}{H}$ とは書かない)

先ほどの例：$G = \{e, a, b, x, y, z\}$，$H = \{e, a, x\}$

$eH = aH = xH = \{e, a, x\}$，$bH = yH = zH = \{b, y, z\}$ なので，

$$G/H = \{\{e, a, x\}, \{b, y, z\}\}$$

正規部分群

群 $(G, \circ)$，部分群 $H \subseteq G$

定義：正規部分群とは？

H が G の正規部分群であるとは，次の条件を満たすこと

$$\text{任意の要素 } g \in G \text{ に対して，} \quad gH = Hg$$

$\circ$	e	a	b	x	y	z
e	e	a	b	x	y	z
a	a	x	y	e	z	b
b	b	z	e	y	x	a
x	x	e	z	a	b	y
y	y	b	a	z	e	x
z	z	y	x	b	a	e

- $H = \{e, a, x\}$ は G の正規部分群
- $H = \{e, b\}$ は G の部分群であるが，正規部分群ではない
  - $aH = \{ae, ab\} = \{a, y\}$
  - $Ha = \{ea, ba\} = \{a, z\}$

正規部分群と同値分割：例

群 G

定義：部分集合の積

G の 2 つの部分集合 H_1, H_2 に対して，$H_1 H_2$ を次のように定義

$$H_1 H_2 = \{h_1 h_2 \mid h_1 \in H_1, h_2 \in H_2\}$$

先ほどの例で，$H = \{e, a, x\}$ のとき，

	$\{e, a, x\}$	$\{b, y, z\}$
$\{e, a, x\}$	$\{e, a, x\}$	$\{b, y, z\}$
$\{b, y, z\}$	$\{b, y, z\}$	$\{e, a, x\}$

$\rightsquigarrow$ H が正規部分群であるとき，G/H はこの演算に関して群になる

正規部分群と同値分割 (1)

群 G，部分群 $H \subseteq G$

性質：正規部分群と同値分割

H が G の正規部分群 $\Rightarrow$ G/H は前のページの演算で群になる

証明：4 つのことを確認する

- 演算で閉じていること
- 単位元を持つこと
- 逆元を持つこと
- 結合性を持つこと

部分集合の積の性質

群 G

性質：部分集合の積の性質

1. H が G の部分群 $\Rightarrow HH = H$
2. $H_1, H_2, H_3 \subseteq G \Rightarrow (H_1H_2)H_3 = H_1(H_2H_3)$

証明 1：H が G の部分群であるとする

- H は演算で閉じているので，任意の $h, h' \in H$ に対して，$hh' \in H$
- $\therefore HH \subseteq H$
- 一方で，任意の $h \in H$ に対して，$h = eh \in HH$
- $\therefore H \subseteq HH$ □

証明 2：$H_1, H_2, H_3 \subseteq G$ とし，$h_1 \in H_1, h_2 \in H_2, h_3 \in H_3$ とする

- G が結合性を持つので，$(h_1h_2)h_3 = h_1(h_2h_3)$
- $\therefore (H_1H_2)H_3 = H_1(H_2H_3)$ □

正規部分群と同値分割 (2)

演算で閉じていること

- $H_1, H_2 \in G/H$ とすると，
  ある $g_1, g_2 \in G$ を使って，$H_1 = g_1 H, H_2 = g_2 H = Hg_2$ と書ける
- このとき,「部分集合の積の性質」から

$$H_1 H_2 = (g_1 H)(g_2 H) \overset{\boxed{2}}{=} g_1(Hg_2)H$$
$$= g_1(g_2 H)H \overset{\boxed{2}}{=} g_1 g_2(HH) \overset{\boxed{1}}{=} g_1 g_2 H$$

- $g_1 g_2 H \in G/H$ なので，確かに G/H はこの演算で閉じている

結合性を持つこと：

- 「部分集合の積の性質 2」から正しいと分かる

正規部分群と同値分割 (3)

$\boxed{\text{単位元を持つこと}}$: $eH \in G/H$ が単位元であることを示す

- $gH \in G/H$ とすると (ただし，$g \in G$ は任意の要素)

$$\begin{aligned}(gH)(eH) &= g(He)H = g(eH)H = (ge)(HH) = gH \\ (eH)(gH) &= e(Hg)H = e(gH)H = (eg)(HH) = gH\end{aligned}$$

- したがって，eH は G/H の単位元である

$\boxed{\text{逆元を持つこと}}$: $gH \in G/H$ の逆元が $g^{-1}H \in G/H$ であることを示す

- eH が G/H の単位元なので，次の計算から それが分かる

$$\begin{aligned}(gH)(g^{-1}H) &= g(Hg^{-1})H = g(g^{-1}H)H = (gg^{-1})(HH) = eH \\ (g^{-1}H)(gH) &= g^{-1}(Hg)H = g^{-1}(gH)H = (g^{-1}g)(HH) = eH\end{aligned}$$

□

目次

群同型定理

群 G, G'，同型写像 $f\colon G \to G'$，部分群 $H \subseteq G$

群同型定理 (第一群同型定理)

H が G の正規部分群 $\Rightarrow$ G/H と $G'/f(H)$ は同型

$\boxed{\text{注}}$:

- $f(H)$ は G' の正規部分群　(まず，これを確認する)
- 通常「第一群同型定理」と呼ばれるものは，これと内容が違う
  ここでの「第一群同型定理」は通常の「第一群同型定理」から分かる

群同型定理：補題

群 G, G'，群同型写像 $f\colon G \to G'$，部分群 $H \subseteq G$

補題

H が G の正規部分群 $\Rightarrow$ $f(H)$ が G' の正規部分群

証明：任意の $g' \in G'$ に対して $g'f(H) \subseteq f(H)g'$ となることをを示す
($g'f(H) \supseteq f(H)g'$ の証明も同様)

- $g'f(x) \in g'f(H)$ とする (ただし，$x \in H$)
- f は同型写像なので，ある $g \in G$ に対して，$g' = f(g)$
- $gH = Hg$ より，ある $y \in H$ が存在して，$gx = yg$
- $\therefore g'f(x) = f(g)f(x) = f(gx) = f(yg) = f(y)f(g) = f(y)g'$
- $f(y) \in f(H)$ なので，$g'f(x) = f(y)g' \in f(H)g'$ □

群同型定理：証明 (1)

写像 $f'\colon G/H \to G'/f(H)$ を次のように定義

$$\text{任意の } gH \in G/H \text{ に対して} \quad f'(gH) = f(g)f(H)$$

この f' が同型写像であることを証明する
つまり，次の 3 つを証明する

1. f' が全射であること

$$\forall\, g'f(H) \in G'/f(H)\ \exists\, gH \in G/H:\ f'(gH) = g'f(H)$$

2. f' が単射であること

$$f'(g_1H) = f'(g_2H) \quad \Rightarrow \quad g_1H = g_2H$$

3. f' が次を満たすこと

$$\forall\, g_1H, g_2H \in G/H:\ f'(g_1Hg_2H) = f'(g_1H)f'(g_2H)$$

群同型定理：証明 (2)

証明 1：任意の $g'f(H) \in G'/f(H)$ を考える

- f は全射なので，ある $g \in G$ が存在して，$f(g) = g'$
- このとき，$gH \in G/H$ を考えると

$$f'(gH) = f(g)f(H) = g'f(H) \in G'/f(H)$$

証明 2：$g_1H, g_2H \in G/H$ が $f'(g_1H) = f'(g_2H)$ を満たすとする

- このとき，$f(g_1)f(H) = f'(g_1H) = f'(g_2H) = f(g_2)f(H)$
- まず，$g_1H \subseteq g_2H$ であることを示す ($g_1H \supseteq g_2H$ の証明も同様)
- $g_1h_1 \in g_1H$ とすると，

$$f(g_1h_1) = f(g_1)f(h_1) \in f(g_1)f(H) = f(g_2)f(H)$$

- よって，ある $h_2 \in H$ が存在して，$f(g_1h_1) = f(g_2)f(h_2) = f(g_2h_2)$
- f は全単射なので，$g_1h_1 = g_2h_2$ (つまり，$g_1h_1 \in g_2H$)

群同型定理：証明 (3)

証明 3：$g_1H, g_2H \in G/H$ とする

- このとき

$$
\begin{aligned}
f'(g_1Hg_2H) &= f'(g_1g_2HH) && (H \text{ が } G \text{ の正規部分群})\\
&= f'(g_1g_2H) && (H \text{ は } G \text{ の部分群})\\
&= f(g_1g_2)f(H) && (f' \text{ の定義})\\
&= f(g_1)f(g_2)f(H) && (f \text{ は同型写像})\\
&= f(g_1)f(g_2)f(H)f(H) && (f(H) \text{ は } G' \text{ の部分群})\\
&= f(g_1)f(H)f(g_2)f(H) && (f(H) \text{ は } G' \text{ の正規部分群})\\
&= f'(g_1H)f'(g_2H) && (f' \text{ の定義})
\end{aligned}
$$

これで，証明が完了した □

群同型定理：再掲

群 G, G'，同型写像 $f\colon G \to G'$，部分群 $H \subseteq G$

群同型定理 (第一群同型定理)

H が G の正規部分群 $\quad \Rightarrow \quad$ G/H と $G'/f(H)$ は同型

目次

今日のまとめ

今日の目標

部分群に関する概念を理解する

- 部分群，正規部分群
- 剰余群

2 つの群が同型でないことを証明する方法の 1 つを体得する

- 群同型定理

残った時間の使い方

- 演習問題をやる
  - 相談推奨 (ひとりでやらない)
- 質問をする
  - 教員と TA は巡回
- 退室時，小さな紙に感想など書いて提出する ← 重要
  - 内容は何でも OK
  - 匿名で OK

目次